「ビタミン愛・ビタミンＮｏ！」の子育て・・・

大西厚生先生の「『愛』語録」に事寄せて

小鳩幼稚園　園長　池田廣美

今春卒園する年長さんが誕生する前年、平成15年度は、小鳩幼稚園の50周年記念の年でした。創立50周年を記念して盛大な式典・祝賀会、各種園行事が開催され、「小鳩半世紀ものがたり」が刊行され、園児、保護者、法人役員、教職員、歴代の関係者などみなさんがこぞって祝ったものでした。

その機会に、伝統ある「母の会」も「鳩和会」と改称し、新たな意気込みで活動の充実を図り更なる絆の強化を求めたのでした。鳩和会主催の50周年記念大講演会も企画され、長岡市の名教育長大西厚生先生をお迎えして、「米百俵と幼児教育・・・親の生き方、あり方について」が実現したのでした。格調高く感動いっぱいの講演会に、みんなは酔いしれました。役員が、手分けし講演をそのまま文字化し、さらに当時の会長吉田真理さんが、その教えのエッセンスを「大西厚生先生『愛』語録」として編集し、日めくり帳として発刊されたのでした。

《発行所は株式会社ビオコスモスジャパン。市内尚文館で日めくり帳一冊1、０５０円にて発売中。残部僅少》

子育てで、迷わぬ親はおりません。暗中模索の中で、よき子に育って欲しいとひたすら必死に没頭する親の姿は昔も今も変わりません。尊くて美しい親子愛です。この講演テープ、講演記録集、「日めくり帳」は、幸い小鳩に保管してあり、図書室で容易に貸し出し可能です。私的には、8年間「日めくり」に親しみ、今回久しぶりに講演テープを聞き直し講演集も再読してみました。またまた惚れ直し、本物の子育て原則に目が覚め、大西先生のたぎるパワーを改めて体内に注入することができました。と、同時にこの『愛語録』は全編、まさに、小鳩の子育て論「ビタミン愛、ビタミンＮｏ！」そのものではないかと気づいたのです。思いやりやおもてなしの心、温かで本気な「寛容」愛と、駄目なことは駄目、ならぬことはなりませんという「毅然」とした愛、その両方が子育ての成長剤として不可欠と考えてきた小鳩だからです。

鳩和会の皆さんにもぜひお薦めしたいと思って、以下、紹介いたします。

「これを過ぎると育たなくなるという臨界期がある。それが八歳という年齢です。八歳までに人間の心のあり方の骨格ができる。」（1日目）

「八歳までに、頭の中で親から受けた愛の地図を作るといわれる。兄弟や友人を信頼し、愛する力と社会に貢献する意欲は、親に愛されているという安心感が生む。」（2日目）

愛は、さらに同朋への愛から人類愛へと階段を上がるように成長していくのだという。こういう風に各国の子ども達が育ち、大人になってくれれば、今のような戦争はなくなると力説されていました。

「愛されるという環境、これがないと子どもは攻撃的になる」（4日目）

「これが足らんと親子関係がうまくいかん。幼少の頃、『今』ですよ、愛されるという状況が大事！」（5日目）

ドーパミンは、やる気と思考力の向上に重要であります。セロトニンは、愛情や安心感、幸福感を生む物質です。生まれてから愛される環境にないとドーパミンやセロトニンという情報伝達物質を分泌する神経細胞が激減してしまうのです。

「自分の子の友達を大事にすると　自分の子もよくなるんです。愛とはそういうものなんです。」（6日目）

「食べ物　大事なんですよ。愛情そのものだ」

美味しいものを食べさせてやりたいという親心。体に良いものを食べさせてやりたいという親心。手間暇かかるんだ、愛情は。食べ物は、「孫は優しい」と覚えたほうがいいという説もあります。（7日目）

「ま」は豆、「ご」はゴマ、「わ」はワカメ、「や」は野菜、「さ」は魚、「し」は椎茸、「い」は芋のことだそうです。

「人間をダメにする方法がありましてね。」（14日目）

欲しい物をいつでも何でもやる、ということは、全部聞いてやると子どもは確実にダメになるんです。

「『ビタミン　愛』と『ビタミン　No！』

優しい包み込む愛情と、凛とした厳しさ

両方が成長剤なんです。」（15日目）

「ビタミン愛」は、池田廣美　小鳩幼稚園園長提唱

人間は、家庭で育ち、学校で学び、社会で大きくなります。「ビタミン愛」とは、甘やかすのでなく甘えさせることであり、手間暇かけ真心を込めて子育てする中で伝わる篤き思いのことであり、気配りの効いた深い愛情のことであります。

「ビタミンNo！」は、岡本道雄　元京都大学総長提唱

「ダメなことは駄目！」や「我慢」を教えてもらえなかった子どもは可哀そうです。

「適当な圧力を与えなければ美味しいご飯にならない。人間もそうなんです。」（17日目）

圧力の出し方は、しっかりと愛情を感じさせながら、厳しさを教えるという、バランス。注意するところはしっかり注意し、実行させ、そして褒める。褒められれば子どもはまた次の厳しさを受け入れられる。人のために尽くす、優しく逞しく、心の美しい人に、人は皆なりたいし、なれるのです。

「三～四歳、七～八歳（反抗期）の時、人間の特に発達する『前頭前野』は、抵抗が刺激となって発達を促す。親はその抵抗体になってやらなければならない。（18日目）

「悪いことは悪いこととして叱ってやることが、人間の人格を形成する前頭前野を鍛え、発達を促し「確固たる個性」ができる。」（27日目）

「母が愛するものを子は愛する」（10日目）
ですから、母が気高いものを愛すれば子どももそうなる
「母が何を喜ぶか、何を嬉しがるか、これによって子どもは育つ。」（20日目）
子どもは見ています。親によく似るのです。子は育てたように育つのです。

「子どもにいい競争心を気づかせるために親が促す方法は、やっぱり昔語り、物語、お伽噺だと思うわね。」（22日目）

「母よ、子どもをしっかり抱け。その子がいつも愛されていて、
これから出ていく世界が、愛に満ち溢れていることを知らせるため
父よ、子どもを抱いて高い山に登れ。そして高い高いをしてやれ。
これから出ていく世界が広く素晴らしい未来に満ちていることを知らせるため」（16日目）（インデアンの古くからの言い伝え）

全国的な少子高齢化の荒波の中で園経営の舵取りは容易ではありません。しかも、不景気脱却のめどは真っ暗です。地球規模での異常気象や災害も続きました。内外の政情も不安定で混迷を深めています。
でも、大好きなサッカー、ワールドカップ南アフリカ大会とカタールでのアジアカップでは、侍ジャパンの大活躍に大きな勇気と元気をもらいました。岡田監督やザッケローニ監督を中心に「諦めない気力」と「団結力」が引き寄せた大感動の勝利。u―21日本代表となでしこジャパンがアベック優勝した広州アジア大会も昨年11月のことでした。世界に羽ばたく若者たちの大活躍に、顔をあげ前を向いてナイススマイルで歩まなくてはと心に誓ったものでした。
さらに、小惑星イトカワを往復したハヤブサ君の驚異的な帰還。「やるじゃない。」頑張っている日本人が今、誇らしくてなりません。

今年度の鳩和会丸、きめ細やかな飯田さゆり会長さんが船長を務め、やる気満々の役員さんが乗組員を務め、全員、絶妙なチームワークで、順風満帆な航海を続けました。誠にお見事！と讃えます。さらに、会員の思いのこもった「こばと文集49号」の発刊、おめでとうございます。編集子さんお疲れ様でした。この一年、保護者の皆様ご協力ありがとうございました。
3月弥生、「愛燦々、夢工房、感動世界の小鳩」から60名が巣立って行きます。再来年、平成25年は、小鳩幼稚園創立60周年の年。みなさん、明日を信じ、明るく元気に頑張っていきましょう。